

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の理念をつくりあげている。	○	これからも事業所独自の理念を大切にしていきたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員全体で理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	○	これからも職員全体で理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいきたい。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	理念を玄関とに掲示し、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	○	理念の刑事を継続して家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいきたい。
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえよう日常的なつきあいができるように努めている	顔を合わせることがあれば挨拶をし世間話などをしており、気軽に立ち寄ってもらえよう雰囲気作りに努めている。	○	更に交流を深め、日常的なつきあいができるように努めていきたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会の清掃活動などに参加し、地元の人々と交流することに努めている。	○	これからもより一層、地元の人々と交流することに努めたい。

グループホームエル・ハヤシ学園前センター(メロディー)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>地域の高齢者等の暮らしに役立つような情報提供を施設の行事の際におこなっている。</p>	○	<p>これからも積極的に話し合う場をつくり、取り組んでいきたい。</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、サービスの改善に取り組んでいる。</p>	○	<p>今後も自己評価及び外部評価を有効に活用して、改選していきたい。</p>
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議での意見をサービス向上に活かしていきたいと考えている。</p>	○	<p>運営推進会議での意見をサービス向上に活かしていきたいと考えている。</p>
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>介護保険上の疑問点などがあれば、市に相談し、適切なアドバイスをもらい、サービスの質の向上に取り組むようにしている。</p>	○	<p>市の担当者から知識や情報を提供してもらい、サービスの質の向上に取り組みたい。</p>
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>地域福祉権利擁護事業や成年後見人制度に関する資料を用意し、理解とその活用に努めている。</p>	○	<p>制度の理解を深め、活用できるよう支援していきたい。</p>
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>研修会を開き学んでおり、実際に注意を払って防止に努めている。</p>	○	<p>今後も研修を続けていきたい。</p>

グループホームエル・ハヤシ学園前センター(メロディー)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約の際は管理者が十分な説明を行い、理解、納得していただいている。	○	これからもその方針を継続していく。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者と管理者や職員は気軽に話し合える雰囲気を作っており、意見、不満、苦情等は運営に反映させている。	○	利用者の意見、不満、苦情を大切にそれらを運営に反映させていく。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月訪問される家族に定期的に報告し、また、個々にも報告している。	○	これからも報告を続けていく。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議での意見、不満、苦情を速やかに運営に反映されている。家族の意見、不満、苦情には迅速に対応している。	○	運営推進会議の内容は速やかに運営に反映させる。また、家族の意見等は傾聴し迅速に対応させていただく。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案については職員全員で検討し反映させている。	○	運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、検討しながら反映させていく。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	○	これからも必要な時間帯に職員を確保できるよう話し合いや勤務の調整に努めていく。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者が馴染みの職員による支援を受けられるように配慮している。	○	利用者がこれからも馴染みの職員による支援を受けられるように配慮し、移動等の場合は利用者への影響を最小限にするよう努める。

グループホームエル・ハヤシ学園前センター(メロディー)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>管理者や職員を育成するための研修を受ける機会を確保している。</p>	<p>○</p> <p>これからも管理者や職員を育成するための計画に沿って研修を受ける機会を確保していく。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>同業者とも研修会に参加して意見交換をおこなっている。</p>	<p>○</p> <p>これからも同業者と交流する機会をもちたい。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境作りに取り組んでいる。</p>	<p>○</p> <p>職員のストレスを軽減するための工夫や環境作りに関心していると考える。</p>
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>管理者や職員の努力、実績、勤務状況を把握し各自が向上心を持って働けるように努めている。</p>	<p>○</p> <p>これからも管理者や職員が向上心を持って働けるように努めていく。</p>
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>面接を行い本人自身から話を聴く機会を持ち、受け止める努力をしている。</p>	<p>○</p> <p>本人自身からよく聴く機会をつくり、本人の不安、困っていることを受け止め、信頼関係を築く努力をしている。</p>
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>家族の話も聴く機会を作り信頼関係を築く努力をしている。</p>	<p>○</p> <p>家族との信頼関係構築に努めている。</p>

グループホームエル・ハヤシ学園前センター(メロディー)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族に一番必要としている支援を見極める対応に努めている。	○	本人と家族に一番必要としている支援を見極める対応に努める。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者に合わせて見学をして頂いたり、他の入居者とおしゃべりの時間を設けたりしている。	○	入居前になじんでおられた支援相談員の協力、家族の支援など活用している。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人と一緒に過ごしながら本人から学んだり支えあう関係を築いている。	○	本人と一緒に過ごしながら本人から学んだり支えあう関係をより協力的に築いていきたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族と共に本人を支えている関係を築いている。	○	家族と共に本人を支えていく関係を築いていきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、本人と家族がよりよい関係が築いていけるように支援している。	○	これまでの本人と家族との理解に努め、本人と家族がよりよい関係が築いていけるように支援していく。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人との交流が継続できるよう支援している。	○	これからも努めていく。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士が良好な関係になれるよう利用者の状態、性格等を考えながら支援している。	○	これからも努めていく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス利用が終了しても、相談等を受け付け継続的な関わりを大切にしている。	○	これからも継続的な関わりを大切にしたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや暮らし方の希望の把握に努め、毎日の生活に活かしている。	○	これからも継続して取り組んでいきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴や生活環境等の把握に努め、毎日の話題等に取り入れる。	○	これからも継続して取り組んでいきたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりの暮らしの現状を総合的に把握し、一日一日を快適に生活できるよう配慮している。	○	これからも継続して取り組んでいきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族、必要な関係者と十分な話し合いをし、利用者本位の介護計画を作成している。	○	これからも本人、家族、必要な関係者の意見やアイデアを反映した利用者本位の介護計画を作成して行きたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の精神的、身体的に大きな変化が生じた場合は、現状に即した介護ができるよう介護計画の見直しを行っている。	○	これからも現状に即した介護計画が作成できるよう努めたい。

グループホームエル・ハヤシ学園前センター(メロディー)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日利用者の介護記録を記入している。	○	観察の力を深めながらより充実した介護記録にしたいと取り組んでいる。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居時の荷物の搬入、搬出支援、送迎サービス、介護用品の購入支援、介護保険サービスの相談支援	○	あらゆるニーズに対応してきているが、今後も相談、要望に応じて全面的に支援していく。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	現在は地域資源との協働にまでは至っていない。	○	本人の意向や必要性があれば、地域資源との協働も考えていきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現在は他のサービスの活用支援は行っていない。	○	必要性に応じて、他のサービスを利用するための支援をしていきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	本人や家族の意向に応じて全てのニーズに対応している。	○	必要性に応じて協働していく。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医と事業者の関係は良好で適切な医療を受けられるよう支援している。	○	これからもかかりつけ医と良好な関係を築き、適切な医療を受けられるように支援していく。

グループホームエル・ハヤシ学園前センター(メロディー)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	本人の症状により、家族と相談しながら専門医等の診断、治療を受けながら支援している。	○	症状が明確でその必要性が認められる家族の理解は容易であるが、他の共同生活者の家族の理解が困難であることの解決策などの取り組んでいる。
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職との協働を行って支援している。	○	今後も看護職との協働に取り組んでいきたい。
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	利用者が入院した場合は病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	これからも入院した場合は病院関係者と連携し、早期退院できるよう情報交換、相談していきたい。
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人との話し合いはほとんどできていないが、家族及び医師とは話題にしている。	○	家族や医師と繰り返し話し合い方針を共有できるようにしたいと考えている。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	今後の変化に備えて検討や準備をおこなっている。	○	今後の変化に備えて検討や準備の強化をしたいと考えている。
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	住み替えの事態が発生した際は関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐよう努めていく。	○	家族や本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努める。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりを大切にその人に適した言葉かけや対応につとめている。	○ 一人ひとりの誇りやプライバシーを大切にし、その人に適した言葉かけや対応をし、記録等についてもプライバシーの確保をしていく。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	一人ひとりの力に合わせた説明をおこない、本人の思いや希望を表せるように支援している。	○ 一人ひとりの力に合わせた説明を行い、本人の思いや希望を表せるように働きかけて納得しながら生活できるよう支援していく。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースにあった生活ができるように一人ひとりの状態をみて支援している。	○ 一人ひとりのペースにあった生活ができているかを確認しながら支援していく。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	○ その人らしい身だしなみやおしゃれのできるようにこれからも支援していく。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みや力を活かしながら利用者と職員と一緒に食事の準備や、食事、片づけをしている。	○ 一人ひとりの好みや力を活かして利用者と職員と一緒に食事の準備や、食事、片付けをしていく。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お酒、飲み物、おやつ、タバコ等好みのもを日常的に楽しんでいる。	○ お酒、飲み物、おやつ、タバコ等好みのもを楽しんでいただけるよう支援していく。

グループホームエル・ハヤシ学園前センター(メロディー)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりの力や排泄パターンを熟知することで排泄の失敗やオムツの使用を減らし気持ちよく排泄できるよう支援している。	○	一人ひとりの力や排泄パターンの変化等にも気を配り、気持ちよく排泄できるよう支援していく。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日、時間帯等の約束事はあるが、一人ひとりの希望に合わせて入浴を楽しんでいただいている。	○	一人ひとりの希望やタイミングを尊重しながら入浴を楽しめるように支援していく。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	安心して気持ちよく休憩したり、眠れるように環境を整え支援している。	○	安心して気持ちよく休憩時間、睡眠時間がとれるよう支援していく。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事準備、配膳、下膳、掃除洗濯物干し、洗濯物整理などの役割を果たしていただいたり、日々のレクリエーションを楽しんだり応援していただいたりしている。	○	これからもできること、楽しめることを見つけ発掘して楽しんでいただきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの力に応じてお金を所持し使えるように支援している。	○	その人の力に応じて全ての管理できる人には所持し、使えるように支援していく。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩、買い物、集会等戸外に出かけるよう支援している。	○	散歩、買い物、集会等一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援していく。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	お花見会等を企画し利用者全員で出かける機会を作っている。	○	これからも楽しい企画をし、外出支援をしていきたい。

グループホームエル・ハヤシ学園前センター(メロディー)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	一人ひとりの希望や力に応じて電話したり、手紙のやり取りの支援をしている。	○	絵手紙等も取り入れ、電話や手紙のやり取りが活発になるように準備をしている。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問者は常に歓迎し、和やかに過ごしていただけるようにしている。	○	いつも和やかに楽しい来訪者の絶えないホームにしたいと考えている。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の弊害についての研修を行い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	○	利用者がのびのびと生活できるよう身体拘束をしないケアを続けていく。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけることの弊害は理解しているが、施設離出、行方不明になる危険のある利用者がいるため現在は玄関に鍵をかけている。	○	毎日のケアで落ち着きが出て、鍵をかけないケアの実践ができるよう職員全員は取り組んでいる。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は昼夜通し、利用者の所在と利用者の健康状態を確認しながら安全に配慮している。	○	一日を通じてプライバシーに配慮しながら安全確認に取り組んでいる。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	前裁、刃物等の注意の必要な物品は、保管場所、管理方法を定め、また必要に応じて利用できるようにしている。	○	これからも注意の必要な物品の保管・管理については、一人ひとりの状態に応じて危険を防ぐ取り組みをしていく。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止のマニュアルがあり、職員は一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	○	常に一人ひとりの状態の変化を把握し、その常態に応じた事故防止に取り組んでいく。

グループホームエル・ハヤシ学園前センター(メロディー)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時のマニュアルがあり、それに沿って対応できるようにしている。	○	緊急時のマニュアルを職員間で共有し、応急手当や初期対応の訓練を定期的に行いたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練実施手順を作成し、職員全員で共有し、利用者が避難できるよう対策を立てている。	○	今後も更に災害対策を充実し、利用者が避難できる方法を身につけたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	家族の望みを優先した対応策を行っている状況を繰り返し伝え、話し合いを重ね慎重に対応している。	○	個人の話し合いにとどまらず、複数の家族により意見交換ができる場を多く持ち、対応策を考えていけるようにする。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日バイタル測定を実施し、様子を観察し、日々の生活記録をつけて体調の変化の早期発見に努めている。	○	これからも継続して体調変化の早期発見に努め、健康に生活できるように支援していく。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師、薬局から頂いた薬の情報を熟読し、日々の生活記録をつけて体調変化の早期発見に努めている。	○	これからも薬の情報を元に適切な服薬の支援と支援の変化の確認を続けていく。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘を予防するため一日1500cc以上の水分補給に努め、ラジオ体操、リズム体操等で身体を動かすことに取り組んでいる。	○	これからも水分補給に努め、体操や散歩等、身体を動かす働きかけに取り組んでいく。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後必ず一人ひとりの口腔状態に応じて口腔ケアをしている。	○	毎食後一人ひとりの口腔状態に応じて適切な口腔ケアをしていく。

グループホームエル・ハヤシ学園前センター(メロディー)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー計算し、栄養バランスに配慮した食材を利用し、摂取量や水分量を記録し、一人ひとりの状態や習慣に応じた支援をしている。	○	カロリー計算し、栄養バランスに配慮した食材を利用し、摂取量や水分量を記録し、一人ひとりの状態や習慣に応じた支援をしていく。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	介護の手引きにより感染症の予防や対応の仕方を実行している。	○	介護の手引きを基に感染症の予防をし、対応の仕方を実行していく。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所、調理用具等の衛生管理をおこない、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	○	これからも台所、調理用具等の衛生管理をおこない、新鮮で安全な食材の使用と管理に努める。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りに季節の草花を植え、利用者や家族が安心して出入りができるようにしている。	○	これからも玄関まわりの草花を欠かすことなく利用者や家族が安心して出入りができるように配慮していく。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は家庭的な雰囲気になるよう配慮し、節分、雛祭りなど季節の行事ごとに飾り付けの工夫をし、居心地よく生活してもらっている。	○	共用の空間は家庭的な雰囲気を保ち、季節の行事ごとの変化も取り入れて楽しく居心地よく工夫していく。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの大きなテーブルやソファなどで三々五々自由に過ごせるように配慮している。	○	テーブルやソファの配置に工夫をこらしながら、一人ひとりの居場所作りに配慮していく。

グループホームエル・ハヤシ学園前センター(メロディー)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	愛着ある家具等を持参してもらい、その人らしい生活空間づくりを行っている。	○	写真や気に入った絵画などで居室を飾ったりもしたいと考えている。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	二時間ごとの間接換気に努めている。室温は温度計により適温に保つようになっている。	○	間接換気だけでなく、直接換気できる状態にしたいと考えている。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員が見守りするなかそれぞれの身体機能に適したかたちで安全かつできるだけ自立した生活が送れるようにしている。	○	更に安全で自立した生活ができるようにこれからも安全な環境作りに努めていきたい。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	各部屋に入居者の名前を掲示し、場所間違いを防ぐ努力をしている。	○	これからも自立して暮らせるよう工夫する。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	草花や野菜を育てたりして楽しんでいる。	○	季節の変化に応じて外回りの空間が楽しく利用できるよう工夫していきたい。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

グループホームエル・ハヤシ学園前センター(メロディー)

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・音楽療法・・・ミュージックセラピストのアラン・ウッデンバーグ氏の音楽療法講義を受講した職員が日々のレクレーションにてそれを入居者とともに実践している。
- ・露天風呂への遠足・・・入居者に露天風呂の楽しさや季節感を味わってもらえるよう年に数回遠足へ行っている。